

フィールドレポーター 2022 年度第 1 回調査
「ヒガンバナは咲いていますか？」調査のご案内

コロナ禍で、フィールドレポーター調査は、しばらく休止を余儀なくされてきました。みなさんいかがお過ごしでしょうか。そろそろ活動が再開できそうですので、久しぶりに調査のご案内をいたします。



調査目的 1: メインはヒガンバナの開花時期

今回の調査対象は、秋の彼岸頃に真っ赤な花を咲かせるヒガンバナです。遠くから見てもすぐにそれと分かるほど、目立ちます。琵琶湖博物館準備室時代の 1995 年に、ヒガンバナの開花日を調べる参加型調査が行われました。結果は、開花時期が滋賀県の北から南へと移るという予想に反して、“県内のどこでも彼岸の頃に咲く”というものでした。けれども既存の研究で、気温が開花に大きく影響することがわかっています。そこで、花期の移りかわりを観察する調査方法によって、県内の開花日を捉え直してみたいと思います。

ただ、開花時期を調べる上で一つ問題になるのは、ヒガンバナそのものの性質です。別紙の「ヒガンバナについて」に書いていますように、ヒガンバナには 3 倍体種、2 倍体種その他、多数の園芸品種があって、形質がそれぞれに異なります。開花時期の検討はなかなか難しいと思われませんが、皆さんの機動力と観察眼で、新発見をたぐり寄せましょう。

調査目的 2: ヒガンバナはどこに咲いている？

最近ヒガンバナが少なくなったという声がある一方で、意外なところで見たという声も聞かれます。ヒガンバナは、昔ながらの“道ばたや田んぼのあぜ”だけでなく、植栽されたものが“庭や公園など”で見られます。咲いていた場所と種類から、ヒガンバナはどこに残り、どこを新天地としているかを探ります。

調査目的 3: ヒガンバナは嫌われもの？

人々によく知られているヒガンバナですが、花に対するイメージは人によって異なるでしょう。例えば、きれいだからと庭に植える人がある一方で、植えてはいけないと嫌う人もあります。ヒガンバナに対する人の意識の現状を、アンケートで探ろうと思います。現地観察には出られないけれど…という方は、意識に関するアンケート（調査票 1）のみの提出でも構いませんので、ご協力をよろしくお願いいたします。

探す種類・場所・時期

「ヒガンバナ」で代表していますが、白色のヒガンバナであるシロバナマンジュシャゲや、園芸品種（リコリス〇〇の名前で売られている）も調査対象にします。

探す場所は、田畑の周辺、集落の空き地や道ばた、住宅の庭、公園や緑地、寺社や墓地、河川・水路の土手です。余裕があれば、昔の環境が残るところを訪ねたり、下流側から上流側へと移動して気温の影響（高い所は涼しいので早く咲く？）を考えたりするのも、面白いかもしれません。早いものは 8 月から咲き始めるそうです。暑い時期ですが、気にかけて見てもらえれば幸いです。

調査期間は 2022 年 10 月 30 日までです。

参考文献

布谷知夫 (1997) 身近な環境調査資料集 ヒガンバナ調査. 滋賀県立琵琶湖博物館: 77-91.

森源治郎・今西英雄・坂西義洋 (1990) *Lycoris* 属の開花に及ぼす温度の影響. 園芸学会誌 59(2): 377-382